



一般社団法人日本土壤肥料学会
秋季北海道支部大会 公開シンポジウム

国際土壤の10年に向けて

2015年は「国際土壤年」として国連総会にて定められました。この目的は、人間生活、食の安全保障、気候変動への適応と緩和、持続可能な発展などに土壤が寄与していることを広く社会に知ってもらうことでした。国際土壤科学会(IUSS)では、その後の10年を「国際土壤の10年」と定め、各国の取組みを世界で共有することにしました。本シンポジウムでは土壤の役割や課題について北海道からの発信を考えていきます。

日時 2017年11月30日(木) 9:45~12:30

場所 かでる2・7 かでるホール 札幌市中央区北2西7

プログラム

筒木潔(帯広畜産大学名誉教授)
「土の有機物研究に携わって」

長尾明宣(元道総研中央農試農業環境部部長)
「雪を利用した野菜の鮮度保持と温暖化への関わり方」

志賀弘行(道総研中央農試場長)
「持続的な農地土壤管理を考える」

大崎満(北海道大学名誉教授)
「失われた土(つち)学の再建が地球を救う」

入場料:無料

ポスター発表(午後 1:30~)にもご参加下さい

主催 一般社団法人日本土壤肥料学会北海道支部

問い合わせ先 kanta@chem.agr.hokudai.ac.jp



International
Decade of Soils
2015-2024